

主催

日本美術
オーラル・
ヒストリー・
アーカイヴ

シンポジウム

申込不要
・
聴講無料

戦後 日本美術 の群声

日時

2017年7月9日(日)

13時30分～17時(13時開場)

場所

東京大学駒場キャンパス

21KOMCEE East 地下1階 K011

戦後日本美術という言葉は、日本において長きに渡って強い磁場を持ち、美術の言説と実践に大きな影響をもたらしてきました。しかし、それによって見えにくくなってしまったものも少なくありません。

本シンポジウムは、そうしたもの——歴史、文化、ジェンダー、アジアなど——に目を向けて、そこに響く複数の声に耳を傾けようとする試みです。

2006年に設立された日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴは、こうした視点も念頭に置きながら活動を行ってきました。発表者には同アーカイヴの研究者に加えて、外部から研究者やアーティストをお招きし、コメントーターとともにディスカッションを行うことで、複眼的な視点で戦後日本美術を問い直します。

開会の辞	池上 裕子(神戸大学准教授、日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ[以下アーカイヴ]副代表)
発表	足立 元(二松学舎大学講師、アーカイヴ) 「『戦後』と『美術』の残りものから 前衛美術会の声を拾う」 小泉 明郎(アーティスト) 「作品《オーラル・ヒストリー》について」 中嶋 泉(首都大学東京准教授、アーカイヴ) 「言葉にならないもの オーラル・ヒストリーと女性アーティスト」 白 凜(東京大学大学院博士課程) 「在日コリアン美術とオーラル・ヒストリー 四コマ漫画家全哲を中心に」
コメント	鈴木 勝雄(東京国立近代美術館主任研究員)
ディスカッション	発表者、コメンテーター、加治屋 健司(東京大学准教授、アーカイヴ代表)
閉会の辞	加治屋 健司
モデレーター	辻 泰岳(日本女子大学助教、アーカイヴ)

足立元

あだち げん

1977年東京都生まれ。二松学舎大学文学部国文学科専任講師。視覚社会史研究者。東京芸術大学大学院博士課程修了。博士(美術)。著書に「前衛の遺伝子 アナキズムから戦後美術へ」(ブリュッケ、2012年)。主な論文に「小野佐世男 逆説の漫画家・空談家」[昭和期美術展覧会の研究](東京文化財研究所、2009年)、「鎖を引きちぎろうとする男『近代思想』の挿絵について」[初期社会主義研究]24号(2012年)、「芸術家と社会 戦前から戦後にかけての左翼思想と美術」[日本美術全集]18巻(小学館、2015年)。

辻泰岳

つじ やすたか

1982年生まれ。東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了。博士(工学)。日本学術振興会特別研究員、コロンビア大学客員研究員などを経て現在、日本女子大学助教、芝浦工業大学非常勤講師。主な論文に「[空間から環境へ]展(1966年)について」[日本建築学会計画系論文集](2014年)、「Too Far East is West: The Visionary Architecture Exhibition as a Background to Metabolism,」 *East Asian Architectural History Conference 2015 Proceedings* (Seoul: EAAC 2015 Organizing Committee, 2015)、「Outdated Pavilions: Learning from Montreal at the Osaka Expo,」 *Invisible Architecture* (Milano: Silvana Editoriale, 2017)など。

加治屋健司

かじや けんじ

1971年千葉県生まれ。東京大学大学院総合文化研究科准教授。日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ代表。ニューヨーク大学大学院美術研究所博士課程修了。PhD(美術史)。著書に「アンフォルム化するモダニズム カラーフィールド絵画と20世紀アメリカ文化」(東京大学出版会、近刊)、共編著に *From Postwar to Postmodern, Art in Japan 1945-1989: Primary Documents* (New York: Museum of Modern Art, 2012)、「中原佑介美術批評選集」全12巻(現代企画室+BankART出版、2011年-)。

鈴木勝雄

すずき かつお

東京国立近代美術館主任研究員。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了(美術史)。1998年より現職。専門は日本および西洋の近代美術。同館での企画展に「沖繩・プリズム 1872-2008」(2008年)や「実験場1950s」(2012年)、「美術と印刷物 1960-70年代を中心に」(2014年)など。最近の論文に「コメモレションの行方 戦争の記憶と美術館」[記憶と認識の中のアジア・太平洋戦争](岩波書店、2015年)や「『Agitate』 the Tokyo Olympics!: The Intervention Art of Hi-Red Center」[The Emergence of The Contemporary: Avant-Garde Art in Japan, 1950-1970](国際交流基金、2016年)など。

小泉明郎

こいずみ めいろう

1976年生まれ。チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザインで映像表現を学ぶ。国内外で滞在制作し映像やパフォーマンスによる作品を発表している。主な個展に「捕われた声は静寂の夢を見る」(アーツ前橋、2015年)、「Project Series 99: Meiro Koizumi」(ニューヨーク近代美術館、2013年)、「MAM Project 009 小泉明郎」(森美術館、2009年)。他に「フューチャー・ジェネレーション・アート・プライズ」(2012年)、「リパブル・ビエンナーレ」(2010年)、「メディア・シティ・ソウル」(2010年)、「あいちトリエンナーレ」(2010年)などに参加。

中嶋泉

なかじま いずみ

首都大学東京都市教養学部准教授。現代美術とフェミニズム美術史を研究。リーズ大学美術文化学研究所修士課程修了。博士論文の題目は「アンチ・アクション 日本戦後絵画と女性画家」。最近の論文に「井上照子 その人と絵画」[井上長三郎・井上照子展](板橋区立美術館、2015年)、「ニューヨークと草間彌生 1959年と1989年の批評から見る」[「ニューヨーク 錯乱する都市の夢と現実」(竹林舎、2016年)など。

白凜

べく りん

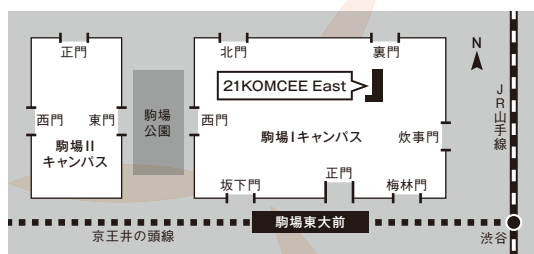
1979年福井県生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程在籍。一般社団法人在日コリアン美術作品保存協会代表理事。1945年から1960年代の在日コリアン美術史を研究している。主な論文に「1950年代の在日朝鮮人美術家の活動 『在日朝鮮美術会』を中心に」[年報カルチュラル・スタディーズ]5号(2017年)、「第14回アンデパンダン展に出品された在日朝鮮人の作品」[美術運動]140号(日本美術会、2013年)など。解説文に「同胞美術案内」[朝鮮新報](全11回、2007-2008年)、「全哲まんがが伝えようとしたもの」[『イオ』149号(朝鮮新報社、2008年)など。

問い合わせ先

日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ
Mail | OralArtHistoryArchives@gmail.com
Website | <http://www.oralarthistory.org/>

東京大学大学院総合文化研究科
加治屋健司研究室 (Tel. 03-5454-4437)

交通案内



東京大学駒場Iキャンパス
(東京都目黒区駒場3-8-1)
京王井の頭線「駒場東大前」駅下車すぐ
お車での来場はご遠慮ください。